



大砂土中だより

はっ らっ
澆 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.3 平成28年 6月 1日号

いじめが起きにくい集団にするために

校長 清水 一司

国立青少年教育振興機構が日本、アメリカ、中国、韓国の高校生を対象に昨年10月から11月にかけて実施した「高校生の生活と意識に関する調査」によれば、「自分はダメな人間だと思う」と回答した日本の高校生が72.5%もいたそうです。同じ質問に対するアメリカの高校生の回答が45.1%、中国の高校生の回答が56.4%、韓国の高校生の回答が35.2%ということなので、日本の高校生は自分のあり方を積極的に評価する感情や、自らの価値や存在意義を肯定する感情などが他国の高校生と比べ突出して低いことが分かります。

ところで、6月は生徒が内面にストレスを抱えこみやすく、学校生活に適應できないという問題が発生しやすい時期です。また、5月から6月にかけてはいじめの認知件数が増加する時期でもあることから、さいたま市では6月を「いじめ撲滅強化月間」としています。私は、いじめの加害者になる生徒の多くに「他人より優位でいたい」という感情が働いているのではないかと考えています。この「他人より優位でいたい」という感情も、努力を続けるエネルギーに変わるのであれば大切にしたいのですが、残念ながらいじめの加害者になる生徒は、この感情が不健全な競争心となって表れてしまうようです。

私は、いじめが起きにくい集団にするために、生徒に自信をもたせることと、自分自身のよさに気付かせることが効果的ではないかと考えています。そうすれば、生徒は自分を肯定的に受け入れることができ、周囲の生徒に対して不健全な競争心をもつことも無くなるのではないのでしょうか。本校には、生徒と教職員がともに自慢にしていることの一つに落ち着いて取り組むことができる授業があります。このこと一つをとっても、全ての生徒が自信をもってよいことだと思います。加えて、落ち着いた授業により勉強が分かることで自信をもつ生徒もいることでしょう。さらに、一人ひとりの生徒が生き生きと活動できる行事や、個性を發揮することができる部活動などで自分自身のよさに気付く生徒もいることでしょう。このように、本校には生徒が自信をもったり、自分自身のよさに気付いたりできる場が多くあります。このことにより、生徒の自己肯定感をはぐくみ、いじめが起きにくい集団にすることができるのではないかと考えています。

私たち大人は、子どもを大切にすることが故に、日頃、「○○はいけません。」「○○はだめです。」などと、必要以上に言っているのかもしれませんが、それが、「自分はダメな人間だと思う」と思い込む子どもを増やし、結果的に冒頭で紹介したような調査結果になっているとも考えられます。私たち大人が、子どもに対して常に期待を込めたメッセージを送り続けることも、結果的にいじめが起きにくい集団にすることになるのではないかと考えます。